

27年度 利用者（園児）本人調査結果報告書

すくすく保育園

(株)R-CORPORATION

*調査日程	観察調査	2015年10月14日・15日
	本人調査	2015年10月15日
*保育観察	調査員3名で全クラスの視察、観察を行いました。生活の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、1日目の昼食を園児と一緒にいき、保育士、園児の様子観察を行いました。当日は、さつま芋ほりの行事に参加し、法人系列園（みなとみらい保育園）の4歳児と合流して行事が行われました。系列4園では同様の交流が行われているとのことで、都心の子どもが自然に交わる経験をするのは非常に良いことであり、他園に公共交通機関を利用して訪問することは各園の子どもたちの社会性を養う上で非常に利益がもたらされることだと感じました。	
*利用者本人調査の方法	4歳児、5歳児対象に園から選ばれた4歳児5名、5歳児5名を2回に分けて各30分、横浜市仕様の質問6項目のインタビューを実施し、一人一人の意見を聴き、集計・分析し、子どもの姿を通して園生活、保育士とのかかわり等を確認しました。また、大きく項目を分け、遊び中心とした保育園での生活、食育を通じた子どもの成長と家庭との連携、そして保育士を中心とした社会生活の面について考察しました。	
*属性	4歳児：男児1名・女児4名 / 5歳児：男児3名・女児2名	

利用者（園児）本人調査結果

1. 【保育園での生活】

すくすく保育園での生活環境は、分散されたたくさんの公園、残された里山の部分など、恵まれた周りの自然を活用しながら子どもたちの育成に取り組んでいます。玩具については、品揃えに配慮し、特に、KAPLAカプラブロック（無垢の木を数種の形で揃え、発達段階に応じて自由な発想で遊べ、形と量の認識が身につく木製ブロック）を活用し、子どもたちは多目的ホールで遊び、大作を作成したものはしばらく壊さずに設置しておくなど、子どもたちの大きな楽しみとなっています。子どもたちは楽しくのびのびと遊んでいます。保育士に、KAPLAのプログラムを組んで計画的に作ったりするのですか、と質問すると、他の遊びと同様に子どもが遊びたいと言ったときに遊んでいるとのことでした。ただし、4歳児担当の男性保育士がKAPLAブロックを勉強して大作に挑戦し、子どもたちも遊びの発見となり、共に一緒に楽しむようになり、啓発の元になっているようです。

## 2. 【食育に関する保育】

子どもたちのインタビューでは、4歳児は、はにかんでポツリポツリと話してくれる程度で、5歳児の意見では、1人が言うと皆が同じ意見になりがちでしたが、好きな食べ物を聞くと、4歳児では、鮭（前日の給食メニューだった様子）の他、うどん、ラーメンなどの答えが返ってきました。5歳児では、全員が魚、野菜が好きと答え、お赤飯が好きと言う子どももいました。食育については、1か月サイクルで食事の献立を園独自で作成し、厨房では工夫して食事を提供しています。完食への取り組みでは食事は同量を盛り付け、量が多いと思う子どもは減量を申告し、自分で言った分は完食できるよう保育士は支援しています。子どもたちと一緒に食事した際は、お代わりをする光景が見られ、売り切れとなるくらいに、子どもたちはおいしく楽しく食事をしていました。また、自分たちで収穫した野菜等を調理してもらい、家庭で好き嫌いがあっても、園ではみんなと一緒に好き嫌いなく食べている様子です。

## 3. 【先生を中心とした社会生活】

社会生活では、お散歩で出会った近所の方や農家の方に挨拶をしていますが、それ以外にも系列園での交流・活動を行い、交流において利用する公共交通機関を通じて幅広い社会性を培っています。基本的な生活習慣について子どもたちに聞いてみると、トイレに行くときは、保育士に言ってから行くとの答えが返ってきました。ケガなどでは、転んだり、ぶついたりした場合は保育士に伝え、処置をしてもらい、絆創膏を貼ったりしてもらっているようです。保育士について、子どもたちは「優しい」、「怖くない」などの意見があり、保育士が好きで、園長先生もいつも保育室に来てくれて、その時に子どもたちは話をするようで、園長先生も好き、と答えていました。子どもたちは、保育士という大人を通じて社会の大人、他人に対するルール、人・ものに対する「思いやり」を学び、保育士も子どもたちを受け止め、楽しく園生活を送っていることが確認できました。